

出典：NHKクローズアップ現代 2013年7月24日（水）放送

深刻化する保育士不足 ～“待機児童ゼロ”への壁～



「2年で20万人分、5年で40万人分の保育の受け皿を確保する。」政府の「待機児童解消加速化プラン」。いち早く“ゼロ宣言”をした横浜をモデルに待機児童解消を図る。しかし、保育の「ハコ」は確保できても、不足するのが保育士。新たに7万4千人が必要になる。既に激しい争奪戦が始まり、保育士を大量に引き抜かれた園や、預かる子どもを制限せざるを得ない園も現れている。保育士不足を加速させているのが、高い離職率。保育士の資格を持ちながら働いていない「潜在保育士」は68万人に上る。食物アレルギーや乳幼児突然死症候群への対策、保護者からの要望への対応など、保育現場の変化が拍車をかける。景気低迷や、少子高齢化による労働力不足が懸念される中、女性が出産後も働ける環境が必要な日本。その鍵を握る「待機児童問題」をどうしたら解決できるのか考える。



首都圏では、この1年で、およそ230の保育所が開設されました。しかし、その裏で起きているのが、深刻な保育士不足です。中には、保育士の引き抜きも起きている。

引き抜きの誘いを受けた保育士

「経験ある人がいいと誘われた。
(給料は)2万円くらいよかった。」

保育士不足を解消しなければ、保育の受け皿を確保することは難しくなります。

保育事業者

「保育士いなければ、保育園は開設、運営できない。
死活問題だと思う。」

待機児童解消を進める中で見過ごされてきた、保育士不足の現状。その実態に迫ります。